



国際連合教育科学文化機関

石狩ユネスコ

石狩ユネスコ

第33号

発行 石狩ユネスコ協会

発行人 会長 村中 誠治

みんなでつなごう平和の心、広げよう地域へ

2023年度石狩ユネスコ協会の活動

石狩ユネスコ協会会長 村中 誠治

現在、世界ではロシアの侵略戦争、ハマスの攻撃から始まったイスラエルのガザ地区への無差別攻撃、ミャンマーの内戦等々人権を無視した悲惨な暴走が続き、多くの人々が犠牲になっております。私たちユネスコ活動の目標である「すべての人間の尊厳を重んじる」「民族間の疑惑と不信をとりのぞく」「世界を友愛と信頼のきずなで結ぶ」といったことが窮地に陥っていると云わざるをえません。地球温暖化で人類の存続が危機に陥ろうという今節、各国が国連を中心に話し合い、平和への道筋をつけてほしいし、日本としても積極的に関わって欲しいものです。

国内では、新年早々能登半島地震が発生し、多くの方が犠牲となりました。日本ユネスコはすぐに支援に取り組み、私たちも少しでも早い復興と子どもたちの教育支援に尽力したいと思いフリーマーケットを実施致しました。

さて、石狩ユネスコの活動では、コロナやインフルエンザが収まらない中、学校関係の交流活動は十分にできませんでしたが、「出前授業」「平和の鐘を鳴らそう」「おしゃべランドくるりんぱ」「寺子屋運動のための書きそんじハガキ回収」「平和の灯」など、当初計画したことは実施することができました。その折に「ユネスコ活動への理解」「会員勧誘」などにも取り組むことが出来ました。また、北海道ユネスコ大会 in 千歳に6名の会員が参加し、研修させていただきました。地域の特性を生かした活動の発表に感銘をうけました。千歳ユネスコ協会の皆様ありがとうございました。

石狩ユネスコ協会では現在、会長と事務局長が入退院を繰り返す状況で、会員の皆さんに迷惑を掛けております。活動を進めてこられたのも事務局員はじめ会員の頑張り、各関係機関、市民の皆様のご支援ご協力のたまものと心より感謝しております。



2023年度の石狩ユネスコスクールの活動

石狩市立生振小学校の実践

教頭 山森 聡

ESDの視点に基づき、総合的な学習の時間や生活科の時間を通して体験的な学習や、特色ある教育活動に取り組んでいます。

① 学校田に係わる活動

地域の方々の多くの協力を得て、「もみまき」「田植え」「稲刈り」「もちつき」など、もち米を育て食べる活動をしました。地域の方々へ取材を行い、米作りを学ぶ活動（3年）や学校田の水生物や昆虫などの生き物調べを行う活動（2年）も行っています。

② 世界寺子屋運動に係わる活動

「ユネスコファーム活動」と題して、地域の方々の協力を得ながら、学校に畑を作り、そこで育てた野菜を保護者に向けて販売しました。得た収益（40,800円）をユネスコに寄付し、世界寺子屋運動に役立てていただいています。また、6年生が中心になって行う、書き損じはがき集めの取組で、はがきの寄付を募る活動をしました。

③ 学年ごとにテーマを決めた総合的な学習に係わる学習

各学年において地域、福祉、環境、エネルギー、国際理解、平和学習等に取り組んでいます。2月には2日に分けてESD発表会を開き、1年間学んだことをまとめ、ポスターセッション形式で発信する機会を設けています。



石狩市立石狩中学校の実践

教頭 森野 泰宏

石狩中学校は、広い意味での「環境」を活動テーマとして、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して「持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身に付けることを通して、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観を養う」ことを目標に学習活動に取り組んでいます。

1年生の実践

「地域の課題と未来」

石狩探訪(石狩湾新港、歴史文化)
海岸の環境学習(海浜植物、ゴミの実態)

2年生の実践

「循環型社会と省エネ」

石狩市や札幌市、国などの調査から循環型社会のあり方を考える

3年生の実践

「共生社会と防災」

災害講座や防災訓練を通して安全安心でよりよい共生社会を考える

全学年の実践「手話講座」

地域社会の一員として地域の福祉について理解し豊かな生活環境を実現する資質を育てる



生徒会中心の実践「人権・平和・異文化理解」

アンネのバラの育成(平和や人権、共生や異文化理解)
ペットボトルキャップ・書き損じハガキ・古紙
(発展途上国の貧困や医療の状況を理解・支援)
いじめ撲滅集会(石狩八幡小・生振小との連携)



今年度は、いじめ撲滅集会と地域防災訓練に加え、開発途上国の貧困対策や子どもの命を救うワクチン支援の為の「ペットボトルキャップ回収」についても中学校区の石狩八幡小学校と連携して実施しました。少しずつ「ユネスコスクール」としての活動を中学校区の小中連携教育として普及しています。

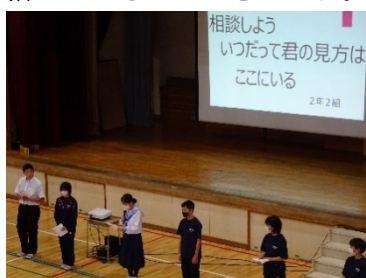
石狩市立花川中学校の実践

主幹教諭 田中 芳憲

今年度は『①人権意識を高め、「課題把握、解決能力」を育む』、『②国際社会の構成員であるという意識を持ち、持続可能な開発目標の達成に貢献する』の2点をねらいとして様々な活動に取り組みました。特に人権意識を高めるための生徒会主催「いじめに関わる取り組み」では、学級での話し合いだけでなく、体育館でのいじめ根絶集会における話し合いにおいて、積極的な参加が見られました。その中で各学級が作成したいじめ根絶標語は、北海道絆づくりメッセージコンクールにおいて最優秀賞をいただくなど、高く評価されました。社会科の授業では、3年生が人権について考えを深め、全員人権作文コンクールへ作品を出品しました。

一方、日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動（書き損じはがき回収）」、NPO 団体プルネットの「リングプル回収」、アイシティ eco プロジェクトの「コンタクトレンズ空ケース回収」に参加し、全校的に社会貢献に臨む意識を向上させることができました。

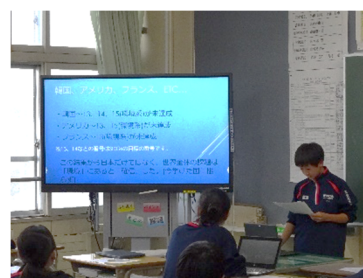
来年度は、ESD を本校の教育活動の中心に据え、より生徒が主体的に学び、社会に貢献できる生徒の育成を目指していきたいと思ひます。



(いじめ根絶集会)



(書き損じはがきとコンタクトレンズ空ケースの回収)



(JICA 訪問学習発表会)

2023年度 第9回 ESD・ユネスコスクール研修会報告

■ 期 日 2023年11月18日(土) 13:30~16:00

■ 場 所 北海道教育大学札幌駅前サテライト

■ 内 容

◎基調講演 「学校教育におけるESD・SDGs～ユネスコスクールとして～」

講師 北海道ユネスコ連絡協議会 会長 大津 和子 氏

◎実践活動事例発表

○石狩市立生振小学校「コロナ禍でのユネスコスクール活動」

発表者 石狩市立生振小学校 田中 亮 校長

○石狩市立花川中学校「グローバルな視点を生かし自己の将来に目を向けるESD活動」

発表者 石狩市立花川中学校 田中 芳憲 主幹教諭



発表する 田中 亮 校長

基調講演では、ESD・SDGsの視点や目標、考え方について、資料を基に具体的に説明があり、ESD・SDGsとユネスコスクールの目的と強い繋がりがあつたことを再認識することができました。

また、石狩市のユネスコスクール2校(生振小、花川中)の実践報告では令和5年度の実践報告が発表され、参加者は熱心に聞き入っていました。生振小学校からは、田中校長が学校経営方針への位置づけやESD教育計画について、また、コロナ禍で制限がある中での多くの実践とESD教育の学校の柱となるユネスコファームの取組状況などが発表されました。



発表する 田中 芳憲 主幹教諭

花川中学校からは、田中主幹教諭が、花川中学校のESD・ユネスコスクールのねらいや育てる資質・能力と具体的な活動事例について報告しました。道徳を含む教科学習や総合的な学習、そして生徒会活動など7つの活動について報告されました。2つの学校に対して参加者から前向きな質問や賞賛の声が挙がっていました。石狩市からは、発表校2校の校長先生をはじめ石狩中の校長先生や石狩ユネスコからも4名が参加し、大変有意義なすばらしい研修会となりました。

松井 卓

出前授業報告

石狩ユネスコ協会 新屋 彩

於 石狩市立生振小学校 2023/5/12



カンボジアってどんな国？

年間世界中から250万人程の観光客が訪れる世界遺産「アンコール・ワット」があるシエムリアップ州では、観光業の恩恵を受けている都市部と農村部に経済的な格差が生まれています。

また、1975年から約4年間続いたポル・ポト独裁政権によって、人口の約4分の1もの人びとが虐殺され、教育システムが崩壊しました。

(日本ユネスコ協会連盟HPより引用)



石狩市立生振小学校の児童のみなさんへ、私がカンボジア研修で実際に見て感じたこと、ユネスコ活動で学んだ情報をお話させていただきました。

広い視野で、様々な想いをもち、「今の自分にできること」を考え行動することの大切さを、私自身も改めて感じました。貴重な時間をありがとうございます。 新屋 彩

寺子屋って何？

識字教育などの【基礎教育】

職業訓練などの【収入向上活動】

寺子屋運営などの【人材育成】

の役割がある場所です。

寺子屋のように、学校外の教育を担う地域学習センターを総称して、現地では「CLC：コミュニティ・ラーニング・センター」と呼んでいます。

生振小とユネスコ

生振小学校での活動が、ユネスコ世界寺子屋運動に繋がっています。

生振小学校が集めた書きそんじハガキ
(2003年～2022年)

書きそんじハガキの枚数

⇒ 28,395枚

支援金 (換金額)

⇒ 1,218,405円

児童の感想

ユネスコ協会の人へ

今日は生振小に来てユネスコ寺子屋についてお話していただきありがとうございました。

今回はユネスコ寺子屋について書きそんじハガキを上手に探して企業などの協力で現金化するという大変な事をして寺子屋運動として活用できたことなどが分かりました。

一番印象に残っていたことは、カンボジアの方は湖の上に住んでおり、寺子屋も湖の上に住んでいました。私達も住んでお家とはまたくちかくて、とてもおもしろいと思いました。

みなさんのおかげでとても勉強になりました。ありがとうございました。ありがとうございました。



情操教育スタートプログラム「おしゃべランド」

□ とき・ところ 6月13日～16日 アートウォーム □ とき・ところ 6月21日 厚田総合センター

市内小学1年生(449名)の子ども達に「情操(美しいものを観たり聴いたりしたときに素直に感動できる豊かな心)」を育む事業として教育委員会と当協会との共催で開催しています。今年度はコロナウイルス感染症が5類感染症と位置付けられていたこともあり、従来のアートウォームと厚田総合センターを会場に実施することができました。



前半は「あらしのよるに」「おならうた」「おおきなかぶ」などの音楽朗読劇(絵本の読み聞かせ)では、出演者の臨場感あふれる表現に子ども達は物語に引き込まれとても楽しそうな時間を過ごしていました。

また、後半は石狩ユネスコ協会から、ユネスコ世界寺子屋運動「くるりんぱ」をサイコロや映像で紹介。生活環境が大きく変化する子ども達に「ものの見方はひとつじゃないよ」というメッセージのもとに、あきらめが希望に変わったり、異文化を受け入れる心が育ったり、ひいては世界平和への芽が育つ一助になってほしいという想いをお伝えしました。

石狩市教育委員会生涯学習部社会教育課 主査 栗谷 幸介

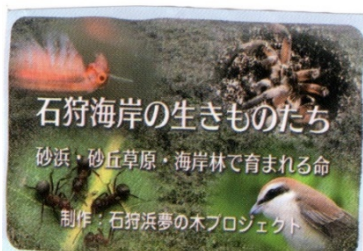
見て さわって 作ってみよう・・・科学の祭典

□ 期日：2023年10月7日(土)、8日(日)

□ 会場：石狩市民図書館

□ 主催：科学の祭典 in 石狩実行委員会

子どもたちの科学的な思考や創造性を育むとともに、子どもから大人まで一体となって楽しめる環境づくりを推進するイベントで、毎年開催されています。今回のブースは、*作ってみよう!色んなエネルギー *星の砂を見よう



*石狩海岸の生き物クイズ大会 *ストローでオーボエとクラリネットをつくらう *タネアート～海浜植物のタネを見て、触って、遊んでみようなどなど。中には、何度も各コーナーを回り、積極的に挑戦している子どももいました。石狩ユネスコ協会も実行委員会のメンバーで、当日はお手伝いをしながら、ついでに楽しみました。

佐藤 政子



全道大会千歳大会参加報告

今年度の会場は千歳市。毎年、会場が変わることは、普段、触れることのできない歴史や文化、地域の人々などに接する貴重な機会ともなります。

プログラムの前半には、千歳市で発掘された遺跡や、地元大学とのコラボによるテクノロジーを用いた新たな遺跡の価値づけの紹介、解説がされるなど、とても興味深いものでした。

その後、千歳市内3校のユネスコスクールの活動発表がされましたが、全て素晴らしい取組。近年、学校に対する家庭や地域、社会からの要請は多岐にわたり、教職員の負担が増加する中、この取組が推進されるためには、学校として、また教職員の皆さんの理解や実践面での多くのご苦勞があることを、改めて感じたとともに、感謝の気持ちを強く持ったところです。

子どもたちによる発表は、自ら学び実践を通した取組としてとても説得力のあるものでした。特に、東千歳



中学校の黒柳徹子さんが親善大使を務めているユニセフへの支援につながった「カボチャでSDGs」では、ユネスコスクールの取組により、物事を考える視野や支援の選択肢を広められたことが、とても印象に残りました。

また、その発表から子どもたちの達成感や楽しさ、満足感を得られた様子も伺え、聴衆もきっと、嬉しく幸せな気持ちになったのではないかと思います。やはり、ここでも子どもたちから、大人たちが、ユネスコ活動への取組に対するパワーをもらったように思います。

次期開催地は、ボールパークでにぎわう北広島市、期待したいと思います。
百井 宏己

平和の灯 平和の鐘を鳴らそう

平和を願って

私は戦後に生まれ、戦争を知らずに育ってきました。平和のありがたさを知り、戦争の悲惨さも知っている私達は、今海外でおきている戦争に心を痛めている人も少なくないと思います。

日本は昭和20年8月6日に広島、9日に長崎へ原子爆弾が投下され、ようやく終戦を迎えました。同じ歴史を二度と繰り返さないよう戦没者を追悼し、平和を祈念する日として8月15日は「終戦記念日」と称されることとなりました。

石狩ユネスコ協会も毎年8月6日と9日の原爆が落とされた時間に、石狩市役所前庭に2007年から設置さ



れている「ガス灯」に点火して、犠牲者に哀悼の意を表し平和の誓いを新たにしています。また、8月15日には協力していただいている市内各寺院で、平和の願いを込めて鐘を突きます。これからも市民の皆さんに参加してもらいながら、灯をともし、鐘をついて平和への祈りを続けていきたいと思っています。

秋田 奈留子

フリーマーケットで能登半島地震支援

パネル展示・フリーマーケット・募金

令和6年3月2日（土）3日（日）花川北コミュニティセンターで、石狩商工会議所主催の「いしかりリフォームフェスタ」が開催されました。ご厚意で石狩ユネスコ協会もブースをいただき、日頃の活動の様子を写真展示で紹介しました。また、フリーマーケットを開き、1月に起きた能登半島地震の支援として、収益金・募金を被災地に送ることができました。フリーマーケット・募金に協力してくださった皆様、物品を提供していただいた方々、ありがとうございました。

被災地の一日も早い復興を願っています。 荘司 芳枝



入会しました 宜しくお願ひします

「鈍刀を磨く」の如く 百井 宏己

「鈍刀をいくら磨いても無駄なことだというのが 何もそんなことばに耳を借す必要はない

せっせと磨くのだ 刀は光らないかもしれないが磨く本人が変わってくる

つまり刀がすまぬと言いながら 磨く本人を光るものにしてくれるのだ

そこが甚深微妙の世界だ。だからせっせと磨くのだ（仏教詩人：坂村真民）」

私は、世のため人のためなんて、まだまだです。ユネスコ活動を通して、よき仲間とともに、僅かでも（無理かもしれませんが）自分自身も磨くつもりで入会しました。よろしくお願ひします。

「温かい思いの輪の中に」 松井 卓

今年度、石狩のユネスコ活動の「平和の灯」や「全道大会」「研修会」などに参加させていただきました。これまで小学校に勤務しており、ユネスコの活動は知っているつもりでしたが、ユネスコ活動の目的や様々な活動を目の当たりにし、改めてユネスコ活動の意味に気付かされました。

これまで、石狩のユネスコの活動が、高い意識と温かい思いをもった皆さんによって脈々と続けられていることが分かり、自分もその輪の中で、できることをできる範囲でお手伝いをさせていただこうと思っています。どうぞ宜しくお願ひします。

2023年度の主な活動

- 4月 生振小学校入学式
イオンの黄色いレシート・ギフトカード受け取る
- 5月 生振小学校に出前授業
北海道ユネスコ連絡協議会総会・交流会
石狩ユネスコ協会総会 公民館（学び交流センター）
石狩市補助金申請書提出
- 6月 おしゃべランド・くるりんぱ
アートウォーム・厚田総合センター（13, 14, 15, 16, 21日）
会報32号発行
日本ユネスコ協会へ現況報告提出
- 7月 全道社会教育委員研修会 かでの2・7
- 8月 平和の灯（6, 9日）
平和の鐘を鳴らそう（14日・能量寺）（15日・永泉寺、了恵寺）
- 9月 生振小学校ユネスコファーム販売会（ジャガイモ、とうきび）
- 10月 科学の祭典 市民図書館（7, 8日）
北海道ユネスコ大会 in 千歳、2023年度北海道ブロック・ユネスコ活動研究会
- 11月 第9回北海道ESDユネスコスクール研修会
北海道教育大学サテライト（紀伊国屋書店）
- 12月 書きそんじハガキキャンペーン開始
生振小学校もちつき大会・ユネスコファーム販売会（カボチャ）
- 2月 石狩中学校書きそんじハガキ受け取りセレモニー
生振小学校ユネスコファーム収益金と書きそんじハガキ受け取りセレモニー
書きそんじハガキを切手に換えて日本ユネスコ協会へ郵送
ユネスコファーム収益金と募金を北海道ユネスコ連絡協議会
経由で日本ユネスコ協会へ
社会教育地域生涯学習活動実践セミナー参加 かでの2・7
- 3月 いしかりリフォームフェスタでユネスコの啓発、
フリーマーケット、能登半島地震募金
収益金と募金を石川県へ送金
書きそんじハガキキャンペーンの感謝状発送
会報33号発行
会計監査
- 例会11回（毎月第3木曜日 学び交流センター）編集会議
○ その他会議

夢と希望をありがとう・・・募金報告

(2023年4月～2024年3月) 敬称略

- * 募金 22,724円
鎌田内科クリニック・石狩花川南一条郵便局
石狩湾漁業協同組合浜益支所・杉浦さく
- * フリーマーケット収益金 37,520円
- * 世界寺子屋運動 53,659円
書きそんじハガキ 839枚 換金額 43,547円
未使用切手 120枚 10,112円
石狩湾漁業協同組合浜益支所・市教委社会教育課
石狩市公民館（学び交流センター）・石狩中学校
浜益小学校・生振小学校・花川小学校・花川マリ
ア認定こども園・石狩北郵便局・鎌田内科クリ
ニック・中島真理子・後藤敏子・庄司きよ江・ユネス
コ会員
- * 生振小学校ユネスコファーム売上金 40,800円
- * 石狩ユネスコ活動への寄付
イオン緑苑台店黄色いレシート 25,500円
尾上忠司 3,000円
- * フリーマーケット物品寄贈
金森百合子・悦田久子・田森和枝・松浦淑子
札幌市東区匿名・猿田・テクノブレイン
- * 募金・書きそんじハガキの支援先
○フリーマーケットで能登半島地震災害募金・石川県へ
○書きそんじハガキ・寺子屋運動として日本ユネスコ協会連盟へ
○生振小学校ユネスコファーム収益金・日本ユネスコ協会連盟へ
○使用済み切手・石狩市社会福祉協議会へ



* 募金箱を設置しています

- 鎌田内科クリニック
○石狩花川南一条郵便局

石狩湾漁業協同組合浜益支所の募金

書きそんじハガキキャンペーン 全国成果報告（2022年度事業）

◆ 集まった物品（タンス遺産）ハガキ換算約85万枚 4239万円の基金相当 ◆

■ 完成した寺子屋 1軒 ■ 学んだ人 2,392人

皆様からのご支援で、カンボジアとネパールの人々に学びの機会を届ける
ことができました。新型コロナウイルスの影響で小学校の学習を続けられな
かった子供たちに、寺子屋での学び直しができるよう対応しました。



カンボジアに完成した21軒目のワリン寺子屋

希望のある世界を築くため、あなたの1枚が力になります。ご協力よろしくお願いします。

・書きそんじハガキ・未使用のハガキ・切手・テレホンカード・クオカード・図書カード・商品券・ギフトカード

編集後記

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」になり、石狩ユネスコ協会も以前の活動ができるよ
うになりました。「世界寺子屋運動～書きそんじハガキキャンペーン」「募金」「フリーマーケット」の活動を「会
報33号」で皆様に届けることができうれしく思います。ご協力ありがとうございました。 大橋 修作

編集スタッフ：秋田奈留子・石川綾子・漆公彦・漆恵子
大橋修作・佐藤政子・荘司芳枝・新屋彩
徳能恵子・林和子・村中誠治・百井宏己
松井卓

日本ユネスコ協会連盟ホームページ <https://www.unesco.or.jp>

入会案内 いつでも入会できます。
連絡先：090-2815-6111（大橋）
090-6448-1517（百井）